

## 研究の概要

### 1 研究主題

#### 「よりよい生活者をはぐくむ学習指導の在り方」

### 2 主題設定の理由

現代の日本は、少子化、核家族化の進行に加えて、メディアの急激な発達により、ひととのかかわりが希薄になるとともに、現実感が薄れてきている。また、生活の中で、自己決定をする機会も少なくなってきたことから、便利さや快適さのみにとらわれた安易な意思決定をしがちである。さらに、ものや情報があふれているため、あえて自分から働きかけたり、困難を乗り越えたりする経験を通して、充実感や達成感を感じることも少なくなっている。このような社会情勢の中、学校教育には単に知識や技術の習得だけではなく、学んだ知識と技術を生かして社会の中で生きて働く力、生涯にわたって学び続ける力を育成することが求められている。本教科は、生活する上で直面する様々な問題の解決に当たり、これまで学んだ知識や技術を応用した解決方法を探求したり、組み合わせて活用すること、それらをもとに自分なりの新しい方法を創造することなど、実際の生活の中で生かすことのできる能力や態度の育成をねらいとしており、これからの社会に対応する力を育成できる教科である。そこで、技術・家庭科の学習を通して、ひととのかかわりを通して価値観を広げ、ものごとの本質を見極めて、適切に判断し、実践できる「よりよい生活者」を育てていきたいと考える。

本県の生徒の実態調査から、技術・家庭科に高い興味・関心をもって、楽しく学習に取り組んでいる様子が見える。しかし、それは単に、実験・実習する活動の楽しさやおもしろさであって、学習したことが生活とどのような関連があるのか、学習することにどのような意味があるかを十分に理解できている生徒は少ないことが明らかとなった。また、生活の中から問題を発見したり、学習して身に付けた知識や技術を生活の中で進んで活用しようとする意識も低いことがわかった。さらに、問題解決の場面で、「簡単にすぐできる」「便利だ」という狭い価値観で判断してしまう傾向があり、他者や家族、地域や社会にとってどうかという視点で考えられない生徒が増えているように思われる。つまり、自分の生活を見つめて問題に気づいたり、適切な意思決定をもとによりよい生活を求めているように実践的な態度が十分には育成されていないことがわかった。

本研究では、将来にわたってめざす姿として「よりよい生活者」をかかげた。よりよい生活者であるためには、ひととのかかわりを通して今まで気づかなかった価値に気づいたり、もの・こととのかかわりを通して物事の本質を追究したりして、学びを広げ深めることが大切である。（かかわる力）また、生活の様々な場面で意思決定する際、たくさんある価値の中から判断できる力、つまり、ひとりよがりな判断ではなく、他者や地域、社会にとってどんな意味があるのかも含めて考え、適切に判断できる力も必要となる。（意思決定能力）そのためには、よりよい生活を求めて、工夫し創造しながら実践し続けようとする力が必要となる。（学ぶエネルギー）技術・家庭科の学習を通して、「よりよい生活者」に迫るための学習指導の在り方について研究していきたいと考える。

---

### <参考文献>

・審議経過報告 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 平成18年2月13日

## 「よりよい生活者」となるための3つの要素について

### 「かかわる力」

ひととかかわるとは、コミュニケーションができることと他者理解ができることである。また、もの・こととかかわるとは、ものごとの本質を深く見つめて、価値に気づいたり、価値観を広げたりすることである。

かかわる力を働きかける力と関係づける力ととらえる。働きかける力とは、好奇心をもち、どんなことなのかを探求しようとする力であり、関係づける力とは、学習して身に付けた知識や技術を生活の中で活用したり、新たな問題を解決するために、個々の知識や技術を関連づけたり、組み合わせて考えたりできる力である。

#### 「ひと もの こと」のとらえ

ひと・・・家族や学校、地域、社会など自分が関わる対象、範囲

もの・・・材料や道具など身の回りにある事物

こと・・・環境、資源、しくみ、システム、文化などの事象

### 「意思決定能力」

将来にわたってよりよい生活をしていくためには、ひとりよがりの意思決定ではなく、他者や社会のことも考えた意思決定ができるようになることが大切である。我々の身の回りにはたくさんの価値があるが、生活のいろいろな場面で自分の行動を決めていくときに、自分が置かれている状況や様々な条件を考えて、「自分はこの価値（方法、手段）をとる。」と決められる力である。

### 「学ぶエネルギー」

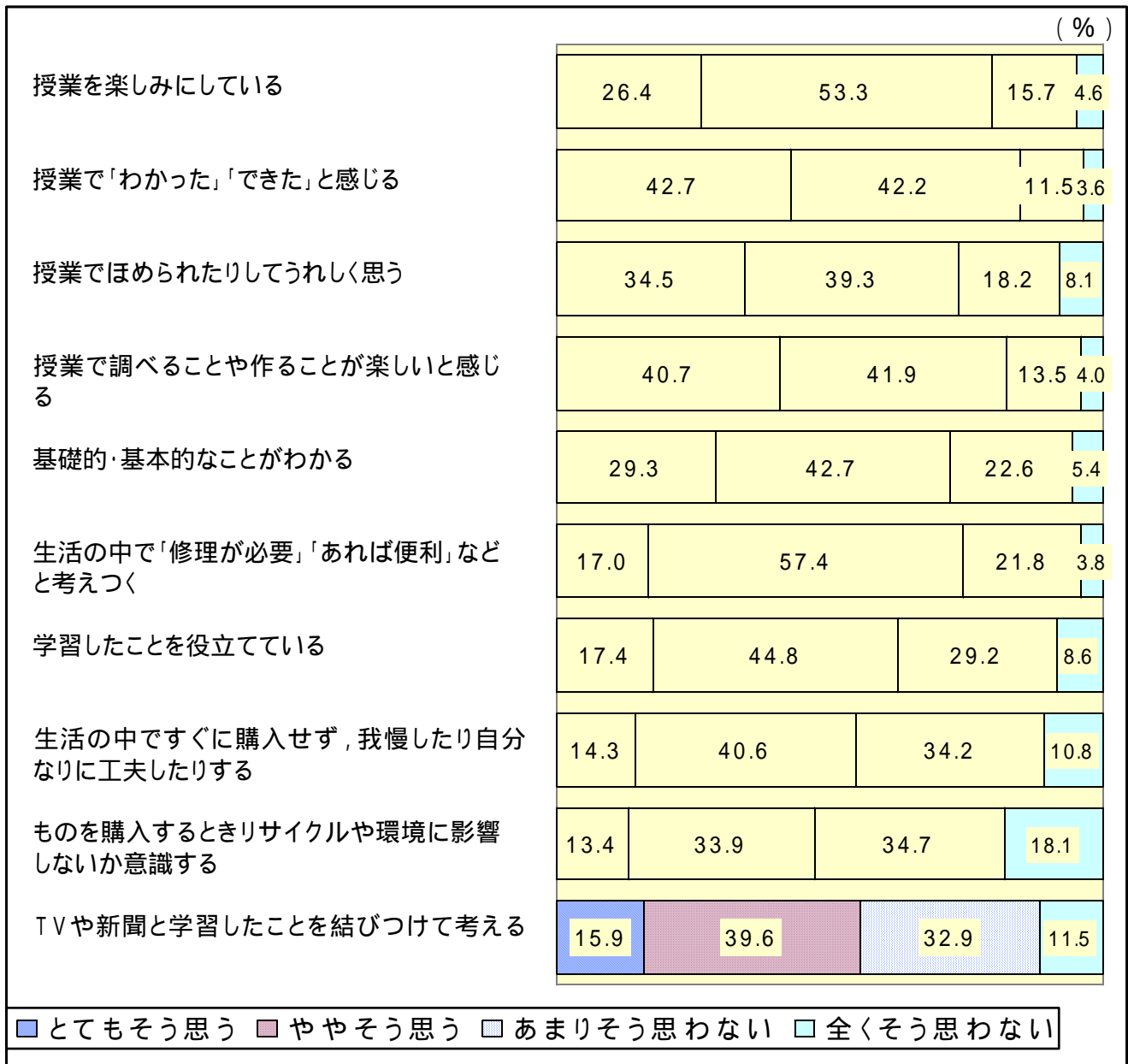
社会の変化に対応しながら、よりよい生活を求めていくために、問題意識をもって生活を見つめて、解決するために主体的に学び続けたり、実践し続けたりしようとする意欲や態度のことである。「(知識や技術を)学ぶこと、身に付けること」によって、解決できることがわかったときに学び続けようとする気持ちが芽生え、「学ぶエネルギー」が高まっていくと考える。

#### 学ぶエネルギーの要素となるもの

興味・関心    好奇心    探求心    意欲    達成感    成就感  
満足感    自己効力感    自己有能感

平成18年10月実施の実態調査から

( 全県からの抽出 第1学年1356人，第2学年1268人，第3学年1337人，計3961人 )



調査結果から，約8割の生徒が授業を楽しみにしていることがわかる。「わかった」「できた」という成就感や調べることや作ることがとても楽しいと4割の生徒が答え，「ややそう思う」と答えた生徒も含めると8割の生徒が授業を楽しんでいると感じ，意欲的に取り組んでいることがわかる。

けれども，学習したことを生活に役立てているかという質問には，「とてもそう思う」と答えた生徒は2割弱で「ややそう思う」を含めても6割に減っている。また，ものをすぐに購入せず，我慢したり工夫する生徒の割合やリサイクルや環境への影響を考えたりする生徒の割合も同様な傾向を示している。

このようなことから，授業には関心を持って取り組むが，それは授業が楽しいと感じているからであり，生活に必要なことから学習すると考えるまでには至っていない。学習したことを生活に役立てたり，生活と結びつけて考えようとしたりする習慣が身につけていないと考えられる。授業で学習したことを生活の中で生かすための習慣づけや工夫が必要であると考えられる。

3 研究推進の構造図

